

発行 熊本県労働者福祉協議会  
事務局 熊本市九品寺1丁目17-9

発行者 河瀬和典  
熊本県労働会館内 TEL 096-372-0915

編集者 梅木一美  
FAX 096-372-0600

### 2005年度 県労福協 研究集会

## 生活設計や保障設計を勉強 九州ろうきんや全労済の運動を理解

05年度熊本県労働者福祉協議会（＝労福協）の研究集会が、11月22日、熊本交通センターホテルで開かれ、約70人が出席しました。

主催者を代表して河瀬会長は「07年以降、団塊世代の大量退職時代を迎える。しかし、退職した後の再雇用は厳しく、企業は非典型労働者（パート・アルバイトなど）としてしか採用しない。組織が減少していくことから、連合は組織拡大をしなければ未来はないとしているが、どうやって拡大をしていくのかが課題だ。福祉事業体もこの大量退職問題に直面するので、労福協として福祉運動をどう進めていくのか、どういう対応策をとっていくのか、連合と労福協、各事業体のネットワークが求められている。この1、2年が勝負の年になる」と、あいさつしました。

### ろうきん『しあわせ創造運動』

続いて講演に入り、まず九州ろうきん熊本県本部の松永業務推進課長が、九州ろうきんで取り組んでいる『しあわせ創造運動』について説明しました。

■この運動は、会員、組合員に発信している九州ろうきんのテーマ、考え方の総称で、上手に生かして安心生活をという実践も含んでいる。

■『しあわせ創造運動』は3つの大きな柱で提案している。まず「生活設計」では、ライフプランを立てること、そ



▲あいさつする河瀬会長

のキーワードは教育、住宅、老後、そのために財形貯蓄を上手に活用すること、特に財形年金をお勧めしたい。

■提案その2は「生活改善」。20代から50代までほとんどの世帯で借入金を抱えている。大半が住宅ローン、残りがクルマ、教育、カードローンなどだが、借り換えを利用しながら返済を一本にまとめることが上手な活用だ。

■提案その3は「生活防衛」。マネートラブルや個人破産を防ぐために、消費者教育に力を入れているし、連合熊本労働弁護団の協力を得て、ろうきんのセーフティネットワークづくりを立ち上げたので、活用してほしい。

■これまで生活改善や防衛に力点が置かれたが、今後は全労済の保険を組み込んだ生活設計に力を入れていきたい。

### 全労済『生活保障設計運動』

2つ目の講演は、全労済熊本県本部の井堀事業推進企画課長が『生活保障設計運動』について説明しました。

■日本は生命保険大国と言われているが、中身は独特の外交員制度によって、多くの方がよく分からないまま勧められるから加入している、というのが実態だ。クルマなどを買うときは比較す

る、悩む、考えるが保険はそれもせずに加入する、契約してしまうケースが多い。

■日本は950種類の生命保険があるが、自分に合った保険選びをするこ

とが大切。全労済では保険料のムリ、ムダを省き、可処分所得を増やすために『生活保障設計運動』を勧めている。

■まず、どういった保障にいくら払えるか。2つ目は、いま加入している保険の内容確認、点検と分析。3つ目は保障プランの提案と相談や学習会。4つ目は結婚や出産、退職など人生の節目で見直しが生じるのでアフターフォローをしていく。

■また遺族保障や医療保障など6つの保険領域がある。これらも含め全労済では情報提供と発信、講師派遣、プランナーの養成をおこなっているため、ぜひ活用してほしい。

※講演終了後、福祉事業体からそれぞれの現状と課題が報告されました。

熊本勤労者住宅生協は、建設中のパークマンション迎刃「平成けやき通り」について、ユニオントラベル熊本は忘新年会と札幌雪まつりツアーのPRを、労働会館は自主文化事業のお知らせなど、当面の取り組みを報告しました。

また、秋津レークタウンクリニックからは現状と今後の取り組みの方向性が示され、終りに赤塚県労福協副会長が「これからも事業体が連携して、くらしのサポートに努めよう」と述べました。



▲全労済熊本・井堀事業推進企画課長



▲九州ろうきん熊本・松永業務推進課長

## 労福協 南部ブロック 研究集会

# 「大規模災害に備える」をテーマに 地震による災害の経験と教訓を学ぶ

2005年度労働者福祉協議会南部ブロック研究集会が、11月1～2日の2日間、福岡市内で開かれ、九州各県から140人が参加しました。

今年のテーマには「大規模災害に備える」が掲げられました。

これは「災害は忘れた頃にやってくる」という諺どおりに、日本は04年に新潟中越地震、今年3月には福岡西方沖地震など、身近に大きな震災を経験していること。

また、労福協では、国土交通省の東南海地震に指定されている21都府県497市町村で、自主的な救援活動を展開するために、連合・行政・市民団体とも連携し、私たちが参画できるボランティア活動など、モデル的な取り

組みが検討されています。

万一、地震が発生したとき、震災時の救援活動など、震災対策には様々な有効手段がありますので、今年の研究集会では「地震を地質学上から学び、地域の防災がどうなっているのかを理解し、先進的に取り組んだ労福協の貴重な体験を織り込みながら、今後、地域にどう反映していくか」を学び合うものとなりました。

研究集会は、中武労福協南部ブロック協議会長があいさつ、行政から福岡県の実生活労働部労働局長、連合から山口九州ブロック連絡会代表幹事が来賓祝辞を述べた後、基調講演その1として、埼玉大学工学部建設工学科の角田教授が『地震はどこでも必ずやってくる』と題して、地震列島といわれる日本列島の地質やプレートなどを説明し、いつ、どこでも地震が発生してもおかしくないと、科学的データをもとに講義しました。

基調講演その2は、福岡西方沖地震を経験した福岡市の市民局生活安全・危機対策部の泉防災課長が『福岡市の防災ーみんなで守ろう！わが家・わが



▲あいさつする中武労福協南部ブロック会長

まち』と題して、地震発生からその後の復旧、今後の対策などについて詳しく報告し教訓と課題を提起しました。

基調講演その3は、連合社会政策局の平木部長が『大規模災害対策への取り組みについて』を提起し、また、基調講演その4では、連合東京ボランティアサポート事務局の真島氏が『緊急対応に備えたボランティア体制確立の必要性と基本』について講演しました。

その後『私たちの経験と教訓』と題して、神戸、新潟、福井の関係者が出席してパネルディスカッションがこなわれました。

地震や台風、集中豪雨などを経験した九州各地の参加者は、熱心に聞き入っていました。



▲熱心に聞き入る参加者の皆さん

## 第11回ろうきん 推進委員 交流集会

# 龍谷大学の石川教授が今後の運動の進め方を提起 参加者130人が分散会や懇親会で意見交換

第11回ろうきん推進委員交流集会（主催：県推進委員会 南部幸博推進委員長）が“一人は皆のために、皆は一人のために”をテーマに、11月11日（金）～12日（土）、本渡市のホテルアレグリア天草で開催されました。今集会には各地区推進委員会委員・ろうきん運営委員・理事および県内ろうきん各営

業所の若年層など約130人が集い、地区活動報告や分散会で様々な意見交換を行ない、懇親を深めました。

また、労働組合論・自主福祉論・NPO論・協同組合論で著名な龍谷大学の石川良一教授が「時代の転換と新たな組合運動・ろうきん運動」と題して講演、今後の組合活動を通してどのようにしてろうきん運動を継続していくのか、またその在り方を展開していく上で今なにを求められているのかなど、大胆な発想と組織・運動スタイルの転換を提起しました。

1997年秋に始まった「生活応援運動」は、九州ろうきん統合後も「しあわせ創造運動」として受け継がれ、「生活設計」「生活改善」「生活防衛」を3



▲あいさつする南部推進委員長

本柱に、会員の生活が「ゆとり」「ゆたかさ」そして「あんしん」なものとなるよう共に考え、共創してきました。第1回交流集会から10年を経た今、“労金設立の原点に立ち仲間の福祉増進を”という原点に振り返り、さらなるしあわせ創造運動の深耕を全員で確認し合い、今集会を閉会しました。



▲講演する龍谷大学の石川教授

## 県労福協チャリティーゴルフコンペ

### 76人が参加し、秋晴れの下でプレー

県労福協主催によるチャリティーゴルフコンペが、10月18日、宇土市のあつまるカントリークラブで開かれ、20組76人が参加しました。

当日は好天に恵まれ、参加者は日頃の腕前を発揮するなど、プレーを楽しみました。また、参加費1000円は76人分、76000円を熊本県自然災害遺児救援会へ、カンパとして贈りました。

優勝 岡田真光さん(情報労連通建連合)  
2位 藤田信哉さん(人吉市職)



▲河瀬会長から賞品を受け取る優勝した岡田さん

- 3位 松岡安己さん(宇城市)  
4位 安村 清さん(全農林)  
5位 下村吉友さん(全通OB)

## 全労済熊本推進員連絡協議会が総会 推進機構のあり方を今後論議

全労済熊本県本部推進員連絡協議会の第21回総会が、10月29日、熊本市リバーサイドホテルで開かれました。

総会は梅木副会長を議長に選んだ後、鬼海会長が「小泉政権が継続となり、郵政民営化に伴い金融機関を取り巻く状況は、今後激変が予想される」と前置きしながら、全国的にも例をみない熊本特有の地域推進活動の過去1年間の実績や取り組みを紹介し、県民共済などの進出も含め、どうやったら地域で加入拡大ができるか、推進機構のあり方など、議論の柱を作っていきたいと、あいさつしました。

総会は活動報告や事業実績、そして



向こう1年間の活動方針など、若干の質疑応答などをおこないながら、役員改選も含め満場一致で承認しました。

また、過去1年間の取り組みや実績など、顕著な成績を上げた九州産交運輸労組や、推進員などを表彰し、総会を終了しました。

## 熊本地区、天草地区でミニ集会

### 「多重債務」やろうきんの役割を勉強

■熊本地区労福協と、ろうきん県庁支店合同のミニ集会在、10月14日夕、熊本テルサで開かれ、主催者を代表して松尾推進委員長が、ミニ集会の主旨やろうきんを取り巻く状況を報告。

続いて稲本司法書士が「多重債務問題について」をテーマに、おれおれ詐欺の手口なども含めた話や対処方法などの説明があり、60人の参加者は真剣に聞き入りました。

■天草地区労福協と、ろうきん天草支店推進委員会は、10月14日夕、本土市民センターで「快適！ピフォーアフター・あなたの暮らしをリフォームしま



▲天草地区のミニ集会

す」と題してミニ集會を開催、青年女性を中心に113人が参加しました。

集會では、ろうきんのビデオを鑑賞後、鶴田ろうきん県推進副委員長が多重債務について講演しました。

# 噴煙

■9月11日投票で実施された総選挙で、小泉自公政権は圧勝した。理由は「郵政民営化、是か非か」という争点を前面に押し出し、民営化に反対する候補に刺客という名の対立候補を送り込んだり、民主党や連合を改革や民営化の抵抗勢力というレッテルを貼るという、メディアをうまく使った小泉戦略によるものだった。この選挙期間中、連合は6月に政府税制調査会が打ち上げた「定率減税の廃止」などが、6000万人にのぼるサラリーマン層への増税になると、全国キャンペーンを展開した。自民党は急ぎ「増税はしない」と公約に掲げて、選挙を逃げ切った。■ところがである。その舌の根も乾



かないうちに、自公圧勝を背景にして、自民党の税制調査会は政府税調の考え方を了承し、定率減税の廃止にゴーサインを出した。まさに公約違反であるし、国民に対する裏切り行為である。■定率減税は、小渕内閣時代に導入されたが、これは景気低迷と消費鈍化が続いたことから、消費拡大と景気回復を図ることと、定率減税の廃止は現状の税制度を抜本的に改革するという条件がつけられた。にも関わらず、選挙で圧勝した、国民は小泉改革を支持した、という理由で増税策をとろうとしている。■国民は増税を了承していないし、納得できるものではない。郵政民営化で総選挙に打って出たのだから、増税問題でも総選挙をするのがスジだ。でなければ「票を自民党に振り込め」という詐欺行為だ。

# パークマンション田迎[平成けやき通り]

## モデルルームオープン

一度あなたの目でお確かめください

熊本勤労者住宅生協 ☎096-370-8067



◀モデルルーム事務所 ▶完成予想図



▲キッチン



▲こども部屋



▲夫婦の寝室

# 八代 ミニバレーボール大会 60チーム、452人が参加

12月1日、八代市総合体育館で第18回八代地区労福協ミニバレーボール大会と、八代労金委員会会議が開かれ、川田労福協会会長代行のあいさつの後、上野八代労金支店長から、年末キャンペーンの取り組みが説明されました。

ミニバレーボール大会は60チーム、452人が参加、10コートに分かれて熱戦が繰り広げられ、試合終了後、コート別の優勝・準優勝の表彰と共に、恒例の団体・個人のお楽しみ抽選会が開かれました。今回は従来の賞品に加えて、労金から会員還元の一環として、「自動食器洗い乾燥機、デジタルカメラ、i・Pod」の特別賞が提供され、大盛況のうちに幕を閉じました。



▲歓声を上げながら熱戦が繰り広げられた

## 札幌雪まつりと小樽観光 氷瀑まつり & 旭山動物園

旅行期間 06年2月12(日)~14(火)  
旅行代金 大人お1人様

**89,800円** (税込)  
(人吉発は2,000円追加)



宿泊予定ホテル  
1日目:札幌ブランドホテル  
2日目:層雲峡温泉ホテル大雪

旅行企画・実施

協同組合 全国旅行業九州・沖縄

	行 程			朝	昼	夕
1日目	07:00 熊本発	9:00/10:30頃 → 福岡空港	12:40 → 千歳空港	X	O	X
2日目	08:00 ホテル	→ 小樽観光 → 昼食 → 旭山動物園 → フーズフェスティバル → 氷瀑まつり見学		O	O	O
3日目	08:30 ホテル	→ 優良良編見学 → 男山酒造 → 昼食 → 千歳空港 → 福岡空港		O	O	X
	19:30 → 熊本					

## 忘・新年会キャンペーン実施中!

2時間飲み放題で **5,000円** 期間 05年11月1日~06年2月28日  
お1人様(税込) 抽選で最大10万円(旅行券)プレゼント!

詳しくは

全国勤労者旅行協会  
生協 法人 ユニオントラベル熊本

TEL(096)371-2022 FAX(096)363-2866

熊本市九品寺1丁目17-9 熊本県知事登録2-34号 総合旅行業業務取扱管理者 松永 裕子

## 編集後記

2000年4月から施行された介護保険制度が5年経過し、今年初めての抜本的な見直しが行われました。

その主な内容は、2015年の超高齢者社会の入り口を展望し、①予防重視型システムへの転換、②地域密着型サービスなど新たなサービス体系の確立、③サービスの質の確保へ向けた、サービス事業者・ケアマネージャー・ホームヘルパーなどの施策の実施などとなっています。また第一号被保険者(65歳以上の方が負担する介護保険料)の現行5段階から6段階への見直し等も決まりました。労福協はこの間低所得者対策として、介護保険料・サービス利用料の負担の軽減を求め、取り組みを進めてきましたが、これから各市町村で、来年3月議会へ向けて、介護保険事業計画の審議が始まります。年明けからが取り組みの本番です。よりよき介護保険制度の実現へ向け、ともに取り組みましょう。(U)